



昭和初期の優れた外観の南向発電所



本棟造りの米山家住宅

最古の仮面など4件を国宝に指定

文化審答申

中川から有形文化財2件

文化審議会（島谷弘幸会長）は21日、法隆寺に伝わった日本最古の仮面「伎楽面」や、古事記を編さんした太安万侶の墓誌など美術工芸品4件を国宝に指定するよう、文部科学相に答申した。重要文化財には琉球王国に仕えた士族の家系図「琉球家譜」など42件の指定を要請。登録有形文化財は、県内からは中川村にある中部電力の水力発電所「南向発電所本館」と、江戸末期の建築とされる本棟造りの民家「米山家住宅主屋」を選んだ。近く答申通り告示され、美術工芸品の重要文化財は1万953件（うち国宝916件）となる。

伎楽面は、中国から朝鮮半島を通じて伝来した音楽劇で使われた仮面。飛鳥・奈良

時代に作られた木製と漆製の計31面で、世界の仮面文化史の中でも質量ともに極めて価値が高いとされた。能面などを含む仮面の中で初の国宝となる。

太安万侶の墓誌は、1979年に奈良市で発見された墓から出土。薄い銅板に名前や位階、居住地などが41文字で刻まれた。古事記などの記載と一致しており、編さん者が実在したことを証明する一級資料と評価された。

南向発電所は、実業家で「電力王」と呼ばれた福澤桃介（1868～1938年、福澤諭吉の婿養子）が建設を手掛け、29（昭和4）年に完成した。鉄筋コンクリート造りで、アールデコ調の装飾や先端がアーチ状の縦長の大きな窓が特徴。優れたデザイン性や、天竜川に築かれた最初期の水力発電施設であること、住民から親しまれている地域のランドマークであることなどが評価された。

米山家住宅は、言い伝えや建築様式などから江戸末期に建てられたと推定。木造平屋一部2階建てで、中南信地域に見られる本棟造り。緩やかな傾斜の屋根の切妻造りや、地域特有の間取り、内部から突き出したはりがひさしの一部を支えているのが特徴。2階は養蚕のための換気や蚕の排せつ物を外に捨てる「蚕糞落とし」などの工夫も見られる。